

漢字への関心を高める指導法への挑戦

—「漢字トランプ教材の作成と活用まで」—

田中 薫 (とよなか J S L)

1. 指導の場では

編入してきた子どもの中に、日本語の学習が十分でない子どもだけでなく、日本語で話すことに不自由を感じなくなっているのに、文章が読めず、授業に楽しみを見出せない子どもが何人かいた。会話を中心に日本語を学んだ子どもだけでなく、外国からの帰国生、日本生まれの外国籍の子どもなど、聞く・話すことを中心に日本語を習得した子どもにも見られる傾向だった。

また、訓読みの漢字がかなり読め、漢字の意味が理解できるようになっても、熟語に馴染めず教科書は読めない子どもがいることが分かった。

2. 実践の目的

「できるだけ辞書を引かずに教科書を読みたい。」「教科書のルビ打ちをいつまでも皆に頼めない。」と訴える声に応えるために、まず漢字に興味を持つ指導の工夫が必要だった。しかし、訓読みの語彙量が増えても、読める熟語を短期間に増やす必要があった。そのため、何よりも熟語の成り立ち方を知らせ、熟語を読める意義を知らせたかった。その結果として開発に着手したのが初期から利用できる漢字トランプカード教材である。

3. 漢字指導に挑戦する過程で必要になったこと

音読みを云々する前に漢字の意味を含む訓読みの量が不足している子どもに試してきた漢字への導入は表1に示す通りで、初期の指導では、文型で早く見慣れること、表意文字であることを利用した抵抗のない導入として絵(図1)を用いること、筆ペンを使った導入で

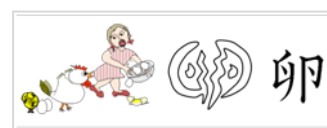


図1 漢字のイメージ図

漢字の画の押さえやはね、筆順への漢字の特徴を知らせることが効果的であった。その上で、漢字の読みを増やす段階では、形声文字の音の学習で読める熟語を増やすことが必要となった。

表1 効果のあった指導手立て

	漢字学習に必要な要因	関心を高めるために効果のあった指導の手立て
訓読み	読むことに慣れる	漢字かな交じり文にルビ打ちし、繰り返し読む機会を持つ
	書くことを楽しむ	図中から象形文字を見つける楽しみで、表意文字としての特性に親しみを持つ
	漢字の特徴をつかむ	筆ペンで漢字の画(はね、止め、押さえ払い)や筆順の基本を理解
	漢字の成り立ちへの理解	漢字漫画テストで部首を活かして、漢字が関係する領域を知る
	漢字のイメージを高める	漢字ことわざカルタや漢字のイメージ画で、漢字を図として印象づける
音読み	漢字のイメージを高める	「高価な(形容動詞)図書(名詞)を返却する(動詞).」など熟語で文作りを試みる
	読む力の強化	音義の相関から単語家族を知らしめ、同音を含む熟語テストで、音から連想する力を付ける
		教科の漢字を拾う
	学習目標を持つ	漢字トランプゲームで熟語の成り立ちの理解し、覚える楽しみを増やす

4. 漢字トランプ教材の作成に至るまで

4.1. 中学生への熟語指導の流れの中で(公立中学校1対1の日本語指導)

ポルトガル語話者多住地域から転校してきた中学校2年生のA君は、日本生まれで日常会話には全く問題がなく、理解は正確であった。当初「日本語学習の必要はない。」と言っていたが、3年生になって、進学への意識から日本語の読み書きの学習を希望した。教科書は簡単な和語以外の漢字が全く読めず、先生の話す内容の理解だけで授業に臨んでいた。

①学習中の国語の教科書をコピーし、漢字全てに読みがなを打ち、2・3回一緒に読んで意味の分からない言葉は簡単に説明し、全文の意味を理解させた。

②読みがなのない教科書に戻り読ませてみると、既知の語彙による熟語は文意から読み取れるようになっていた。その後、国語の授業に臨んだ彼は、「ぼくは初めて国語の授業が楽しいと思った。」と呟いた。

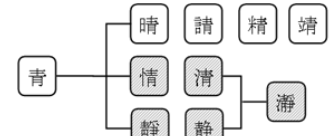


図2 単語家族の図

③漢字の意味が分かれば読めるということが確認できたので、形声文字の学習に意欲的になった彼に、漢和辞書を使って確認させながら**音義の相関**から**単語家族**の図(図2)を作らせた。

④音読みできる漢字が増えてくると、文字の音が想像でき、既知の語彙と結びついてくる機会が増えた。そこで、同音を含む熟語を2つずつ並べて読みを入れさせると、50%の正解率に到達できるようになった。(図3)

1 農園 遠足	2 結果 課題	3 正義 議会	4 試験 危険
5 先週 周囲	6 少数 省略	7 生活 性格	8 制度 製造

図3 同音を含む熟語

4.2. 小学生への熟語指導の流れの中で(ボランティア日本語教室1対1の指導)

①小学4年生でアジアの非漢字圏から帰国した子どもは教科書が読めず4.1.と同様の方法を試みようと考えた。しかし、会話は辛うじて成立するものの日本語力は基本から学び直す必要のあることが多かった。音読み熟語には嫌悪感を持っている様子さえ見受けられた。

②そこで、漢字の意味が分かる形容詞50個を学習した後に、形容詞のカードを作り、反意語を利用して熟語に導入することにした。さらに、形容詞と組み合わせることのできる語彙を集めてみると接頭辞や接尾辞になるものが組み合わせの理解と興味に効力を発揮することが分かった。

③さらに、漢字カードにトランプゲームを取り入れることで、読みへの抵抗が一気に減少した。

5. 最初に作成した漢字トランプゲーム(ボランティア日本語教室少人数グループの指導)

形容詞の訓読みの学習後すぐに導入できるよう、トランプの数字に合わせて形容詞の漢字を組み合わせた多い順に漢字を♦の13(K)~1(A)に当てはめた。♠にその対義語で、♣にはその他の形容詞で、♥のカードは接頭辞や接尾辞となる漢字で構成した。つまり、形容詞同士、接頭辞・接尾辞になる漢字の組み合わせだけで多量の語彙が理解できる仕組みを作って、音読みと組み合わせの関係から漢字の持つ意味の重要性に気づけるようにした。プレイはポーカー・七並べ・神経衰弱などを取り入れ、カードの読みと、組み合わせ表を参考にできるようにした。



図4 授業風景

数字	♠	♣	♥	♦
13	静寂	静寂	静寂	静寂
12	静寂	静寂	静寂	静寂
11	静寂	静寂	静寂	静寂
10	静寂	静寂	静寂	静寂
9	静寂	静寂	静寂	静寂
8	静寂	静寂	静寂	静寂
7	静寂	静寂	静寂	静寂
6	静寂	静寂	静寂	静寂
5	静寂	静寂	静寂	静寂
4	静寂	静寂	静寂	静寂
3	静寂	静寂	静寂	静寂
2	静寂	静寂	静寂	静寂
1	静寂	静寂	静寂	静寂

表2 組み合わせ表

6. 結果と考察

ゲームができるので子どもは漢字の読み方を覚えることに夢中になった。見学の保護者もプレイに引き込み、カードを手にする度に、既知の漢字の意味から可能な組み合わせを連想し、積極的に質問し、組み合わせ表を持ち帰り次の対戦までに覚えたいと意欲を示した。1つ音読みを知れば幾つもの熟語の読みに広がる喜びや、努力の効果が得点となって目に見えるゲームが、読みを増やそうとする意欲につながった。実践を通じて、漢字の持つ特性が分かりやすく理解でき、漢字そのものに興味を持つことが大切であると痛感した。また、気軽に尋ねたり、辞書を引いたりしてみたいくなる機会が増える教材が、子どもの意欲を高める手立てとして有効だと分かった。

現在、動詞を主としたカードや、低学年用のカードを加えたが、選ぶ漢字によって微妙に組み

せ量が変化するため、今後さらに、学年や目標に合った漢字の選び方に工夫が必要である。